

日医 定例記者会見

7月15日

iJMAT構想に基づき 台湾の爆発事故での 重度熱傷者への 緊急医療支援を実施



石井正三常任理事は、6月27日に台湾新北市のテーマパーク「八仙海岸

八仙水上樂園」で発生した粉塵爆発事故による多数の熱傷患者の治療に際し、台湾医師会及び台湾路竹会（医療ボランティアNGO団体）からの緊急医療支援の要請を受け、「日本医師会『3学会合同熱傷診療支援医師団』」を派遣したことを明らかにし、その経緯等を説明した。

日医では、iJMAT (International Japan Medical Association Team) 構想に基づいて、「災害時の医療・救護支援における医師の派遣と支援体制における相互承認に関する日本医師会と各国医師会との間の協定」を台湾医師会と7月中に締結する予定で作業を進めていたが、今回の事故を受け、急遽AMD

A (The Association of Medical Doctors of Asia: 認定特定非営利活動法人アムダ) の菅波茂代表と氏家良人日本集中治療医学会理事長が、7月2日に訪台し、現地状況を掌握した上で要請に基づき派遣が行われた。

今回の事故による負傷者は、6月30日時点で498名（集中治療室：277名、一般病棟：160名、退院60名、死亡：1名）に上り、特に重症度の高い患者が多く、日本赤十字社から台湾の赤十字へ寄贈された人工皮膚や、日本企業から寄贈された医療用品等を用いた治療に際して、日本の専門の医師の協力が求められていた。そこで、日本集中治療医学会・日本救急医学会・日本熱傷学会の3学会から推薦された、熱傷治療の専門家6名を「日本医師会『3学会合同熱傷診療支援医師団』」として、7月12日（日）～15日（水）の予定で派遣したものである。

同常任理事は、「東日本大震災時には台湾から

義援金等の支援も頂いており、関係者と相談して派遣を決めた。アメリカも医療チームを派遣する予定という話もあり、災害支援においては、一度に行っただけに逆負担をかけることもあるので、一旦引き揚げて、今後は、い

わゆる「デマンド型」の災害支援をとり、必要に応じ、現地の関係者等の意向をうかがってから追加支援を検討することになる」と述べた。

なお、日医では、4月25日に発生したネパール大地震の災害救援を目的とした支援金募集を行ってきたが、台湾に対してもその募集を行うことにした（下記参照）。

台湾における爆発事故による重傷熱傷患者に対する医療支援活動への支援金募集

日医では、6月27日に発生した台湾における爆発事故による重傷熱傷患者の支援を行うため、全国の医師会及び会員の先生方に対して、緊急に支援金の募集を開始することといたしました。頂いた支援金は重篤な重症患者への継続的な治療、人工皮膚等の医療材料、日本からの支援医療団派遣等の費用に使う予定です。本趣旨にご賛同頂き、ご協力のほど、お願いいたします。

1. 支援金受付 銀行名：三井住友銀行 神田支店
口座番号：普通預金 3140369
口座名：公益社団法人日本医師会
台湾爆発事故支援金 全国医師会口

※振込口座名は、「日医台湾事故支援金」と省略も可。
※手数料は各自ご負担願います。

2. 受付期間 平成27年7月17日～9月30日